

令和5年2月15日

令和4年度 練馬区立石神井西中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校
校長 荒井 友香

1 自己評価結果

(1) 概要

本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、20項目を設定し、【ア：とてもそう思う、イ：どちらかといえばそう思う、ウ：どちらかといえばそう思わない、エ：そう思わない】の4段階で11月～12月に評価を行った。ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し、

- ・80%以上の項目を A（目標が充分達成できている）
- ・80%未満55%以上の項目を B（概ね達成できている）
- ・55%未満40%以上の項目を C（達成がやや不十分である）
- ・40%未満の項目を D（達成が不十分である）として表記している。

評価結果は各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいくこととした。

成果としては、全体的に肯定的な評価となったことが挙げられる。特に、「道徳の授業は充実しており、様々な立場で考えることができる。」「生徒会活動・学校行事などを通して、集団としての自主性や責任感が伸びている。」「基本的な生活習慣を身に付け、規律ある集団行動をとることができている。」「基本的な体力や運動に親しむ態度が向上している。」「生徒の実態に応じた学年・学級経営が進められている。」「体罰や個人情報の流出等を含めた事故防止は適切に行われている。」「教員間の情報の共有は適切に行われている。」の7項目は生徒、地域・保護者の95%以上がB評価以上を付け、高い評価となった。道徳の授業や生徒会活動の充実については、特に学校として重点をおいて教育活動を進めており、今後も一層推進していきたい。また、教員の資質・能力の向上の設問4項目中3項目で高い評価を得られたことは我々教職員への信頼が高まっているとも考えられる。

課題としては、「確かな学力の定着」の4つの設問項目において、地域・保護者のB以上とする回答が9割を下回った。一方生徒においてはそのうち3つの設問項目でB以上とする回答が9割を超えた。つまり「確かな学力の定着」において、地域・保護者の視点と生徒の視点では少し差があることがわかり、地域・保護者に学校の取り組みが伝わるような工夫をしていく必要がある。例えば学校ホームページなどで発信回数を増加させることもその工夫の一つである。

さらに、「自学自習ノートやタブレット端末を活用して自主的に学習に取り組んでいる。」の項目においては、生徒、地域・保護者ともに9割を下回った。他の項目に比べて回答の割合が低いことを考えると、自学自習ノートの活用事例やタブレット端末を使った授業の充実を今後さらに図っていく必要がある。

次年度以降、現在の取り組みを継続しつつ、地域・保護者にわかりやすい情報発信の仕方を検討し、「開かれた学校」づくりを進めていきたい。

(2) 根拠となる資料

評価項目		取組指標	取組目標 (教師)	成果目標 (生徒・ 保護者)	評価 結果	肯定的評価 % (上段：生徒) (下段：地域・保護者)	次年度の改善策
豊かな心の醸成	道徳の授業は充実しており、様々な立場で考えることが出来る。	全学級が年間を通じて、石西メソッドとローテーション道徳を取り入れた道徳授業を実施する。	80%	80%	A	97.2% 97.6%	教員が授業で使っているツールを共有し、指導の一層の充実を図る。
	生徒会活動・学校行事などを通して、集団としての自主性や責任感が伸びている。	生徒会を中心として、地域の小学校と共に取り組む事業を開始する。	80%	80%	A	96.3% 97.6%	近隣小学校との連携や、校外に向けた取組等も取り入れ、石神井西中生の代表として活動する意識をもたせる。
	福祉体験等を通じて、思いやりの心が育っている。	地域の高齢者福祉施設での体験学習や障害理解教育を系統的に実施する。	80%	80%	A	93.3% 94.6%	福祉体験的な機会を再構築したい。
	基本的な生活習慣を身に付け、規律ある集団行動をとることができている。	学校行事等で生徒自身が判断して行動する場面を設定する。	80%	80%	A	96.6% 99.4%	現在の取組を継続する。
確かな学力の定着	1単位時間の学習事項が分かり、主体的に学習に取り組むことができる。	1単位時間ごとのねらいを生徒に提示する。	80%	80%	A	94.6% 87.3%	学校だよりや公開日などでどのような授業を行っているのか発信する。
	学習内容に対して、必要に応じて指導や助言を得ることができる。	学力向上支援講師やタブレット端末等を活用し、個に応じた指導の徹底を図る。	80%	80%	A	94.1% 86.1%	学習内容を振り返る時間を設けるなど、質問できる場を設定し、指導や助言のさらなる改善を進める。
	自学自習ノートやタブレット端末を活用して自主的に学習に取り組んでいる。	自学自習ノートやタブレット端末の活用を進め、各学年の実態に応じた家庭学習例を提示する。	80%	80%	A	89.4% 88.0%	学習活動例を提示する。
	必要に応じて、補充指導を受けることが出来る。	補充指導等の場を設定するとともに、取組を周知する。	80%	80%	A	91.2% 87.3%	取組内容や補充学習の必要な範囲を提示する。

健康・体力の向上	健康の保持・増進や感染症対策を行っている。	望ましい食習慣の形成や感染症予防を含めた健康増進や保持に対する意識啓発を行う。	80%	80%	A	94.4% 95.8%	共用部分の消毒など、感染症対策を今後も継続していく。
	基礎的な体力や運動に親しむ態度が向上している。	生徒個々が目標をもって、基礎的な体力や運動能力を向上できるよう指導する。	80%	80%	A	95.8% 95.8%	技能習得や勝敗にこだわらない生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。
	自分に合ったスポーツライフについて考えることができる。	パラリンピック競技の体験等を通し、障害スポーツやそれを支える人たちへの理解を促進し、一人ひとりの指向や特性に応じたスポーツライフの在り方について考える場を設定する。	80%	80%	A	94.4% 95.8%	基礎体力の向上のために毎授業で共通のウォーミングアップを実施したり、教え合う場の設定を多く取り入れる。
	避難訓練や安全指導を通じて、危険を回避する意識が向上している。	安全教育・防災教育を通じて、さまざまな場面を想定しながら、自ら危険を回避する能力の育成を図る。	80%	80%	A	91.9% 97.0%	地震以外の緊急時も訓練対象とする。また、SNSトラブルもセーフティ教室や情報モラル教室で取り上げる。
すべての生徒に向けた支援	いじめ等の対応について、小学校との連携は十分に行われていると感じることができる。	石神井西小学校、立野小学校、関町小学校、外部機関と連携し、いじめの未然防止や解消、不登校児童・生徒の出現防止や一人一人の学校復帰について検討する。	80%	80%	A	91.9% 95.2%	小中学校間の連携を密に行い、活動を発信していく。
	必要に応じて、教育的な相談をし、支援を受けることができる。	教育相談等の取組について周知するとともに、特別な教育支援を要する生徒に対し、支援方法を整理し、学校生活支援員や臨時支援員等を活用しながら、学習・生活面での生徒支援にあたる。	80%	80%	A	94.7% 95.8%	SCや心のふれあい相談員の活動、相談室の様子を伝えるため、紙面でのお便りの発行を行う。

	地域ボランティア活動を行う機会が十分にあった。	青少年赤十字（JRC）委員会を核にした国際理解とボランティアに関する学習・活動を推進し、地域ボランティア活動を継続する。	80%	80%	A	84.9% 92.1%	地域でのボランティア活動、特に緑化活動を継続する。
	英語検定や漢字検定を受検したり地域を学んだりする機会は十分にあった。	学校支援コーディネーターを活用し、英語検定試験・漢字検定試験、地域未来塾を継続すると共に、関町図書館を始めとした教育施設の活用など、生涯学習の観点に立って、地域に根差した教育活動を進める。	80%	80%	A	94.1% 96.3%	「練馬調べ」を継続し、地域を学ぶ機会を確保する。
教員 の 資 質 ・ 能 力 の 向 上	生徒の実態に応じた学年・学級経営が進められている。	全教員が校務改善に向けて意見提出するとともに、生徒の実態を踏まえた学年・学級経営案を作成・実施する。	80%	80%	A	95.2% 97.0%	生徒の実態に応じて、全体の指導方針に基づいて経営を進めていく。
	学習内容は分かりやすく、工夫して指導されている。	校内OJT体制を整備するとともに、全教員が年2回の生徒による授業評価、年1回以上の研究授業を行う。	80%	80%	A	93.5% 89.8%	授業改善や指導方法の工夫について、引き続き研究を進める。
	体罰や個人情報の流出等を含めた事故防止は適切に行われている。	服務事故防止研修を年間5回以上実施する。	80%	80%	A	96.9% 99.4%	研修を継続し、教職員一同の意識向上に努める。
	教員間の情報の共有は適切に行われている。	毎朝の打ち合わせの時間での報告・連絡・相談を徹底し、風通しの良い職場環境を構築する。	80%	80%	A	95.5% 95.7%	PC上の校内掲示板を活用しながら、今後も細やかな情報共有を行う。

2 主な意見

(1) 成果

- ・中学に入学して先生から褒められたり認めてもらえることをすごく喜んでいて、勉強も行事も部活も真っすぐに頑張るようになりました。愛情・信頼に応えたいという気持ちでここまで変わるのかと驚いています。親が言うことは何でも嫌がられるこの時期に、良い先生方・同級生に恵まれてたくさん刺激を受けて、充実した学校生活を送れていることに感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます。
- ・とても安心して通わせることができます。
- ・細やかにご指導いただき感謝しております。活気や自主性を感じるのはもちろんのこと、我が子のようにマイペースでのんびりしたタイプの子も、穏やかに楽しく生活できる、本当に素晴らしい学校だと思っております。
- ・校長先生、副校長先生、先生方が一丸となって、真心で生徒たちの事を考えてみえる事が実感できます。
- ・コロナの中でも工夫しながらイベントを開催してくださり、子供の成長を見れてありがたいと思っています。
- ・西中は子供に自主的に行動させようとしてくださっているよう感じます。先生同士も、子供と先生も仲が良い印象で微笑ましいです。

②課題

- ・中間試験がなくなり単元テストになったが、期末前の週に複数の科目で実施されるなど、とても計画的かつ効果的に実施されているとは思えなかった。また、服装髪型について校則がないにも関わらず各先生が個人個人の意見で個別に注意するため何が正しいのか子供たちが混乱している。
- ・ホームページを充実させてもらいたい。部活の内容や行事の写真などコロナ禍や仕事などで学校に行けない分ホームページで知りたい
- ・心の相談員に相談したくとも、他生徒の目もあり相談申込みがしづらい点があるようです。
- ・副教科書が多いので本当に重要な学びがどれなのか迷いが出ます。
- ・他の区などでは数学の学力別授業が実施されていると聞いています。石神井西中での導入もご検討いただけたらと思っております。
- ・学級閉鎖や体調不良で登校できない際に、自習ではなく、もう少しオンライン授業など有れば良かったなと思います。
- ・コロナで閉鎖的にはなりましたが、子供たちが地域の方々とも交流がとれる機会があればよいな。と期待しております（お祭り等）

3 評価結果の公表等

- ・評価結果については、3月中旬に保護者会を開き、学校だより（2月号）を資料として、学校全体評価結果と考察を校長から口頭で説明する。
- ・ホームページで、学校評価結果（2月学校だより）を公開する。
- ・地域関係者には、2月の学校評議員会を书面開催とし、事前に送付しておいた結果について意見を返信いただいた。

4 次年度の学校改善へ向けた校（園）長の見解

今年度の重点目標の中で、生徒と地域・保護者からの評価に乖離がみられた項目について、改善策を着実に進めると共に、コロナ禍後の地域と協働した教育活動の再構築、高い評価を得ている現在の教育活動の定着を図るべく教育課程を編成し、次の点を特に重点として取り組んでまいります。

◇学習指導

副教材の多さや単元テストについてのご意見をいただきました。次年度は、教材の精選、単元テストの検証を進めます。

また、本校では必要に応じてオンライン授業を実施しています。こうした点について、一層の発信を進めます。

◇生活指導

特別活動を中心に、生徒主体の場面を増やすことを主眼に取り組めます。生徒会を中心とした委員会活動を活性化し、本校の伝統である「自治の精神」の醸成を進めます。また、今年度発足した生活のきまり検討委員会を継続し、生徒から見た本校の良さや課題を教員が共有しながら生活指導を進めてまいります。

◇特別な教育支援

教育相談について他生徒の目が気になり申し込みがしにくいのではないかとのご指摘があり、この点について早急に改善が必要であると考えます。現在も、ご自宅から電話で申し込むことはできますが、タブレット端末からの申し込みなどの方法も検討します。

また、より早期の教育相談の場を提供するために、次年度からは、第1学年生徒を対象としたスクールカウンセラーによる全員面接をおおむね2か月前倒しにします。

◇その他の特色ある教育活動

①共生社会に向けての取組

校訓の「共生」を具現化するため、特に学校レガシーとして「ボランティアマインド」「障害者・高齢者理解」に力を入れ、手話講座やボッチャ体験などが定着しました。しかしながら、コロナ禍で地域ボランティアの機会はほとんどなくなってしまいました。その中で継続してきた、園芸部を中心とした緑化活動や落ち葉清掃と共に、関町福祉園での体験的活動など、地域とのつながりを改めて構築します。

②いじめの早期発見・早期対応

いじめについては早期発見・早期対応を旨としています。上述したスクールカウンセラーによる全員面接の他、アンケート調査、いじめ対策委員会による学校全体での見守り体制の構築を継続します。次年度は新たに、Googleform で年間を通じて、希望する教員に対して相談を申し込めるよう準備を進めます。

③小中連携

地域の小学校とは「学力向上」「体力向上」「不登校対策」「学校間交流」の4つの柱で活動を進めてきました。次年度は、それぞれの柱の取組を一層推進し、相互に学校訪問ができるよう協議を進めます。